

1998年の

撮影日記

by awane-photo.com



もくじ

1999年 ... 105

2000年 ... 165

●	1月	...	2
●	2月	...	10
●	3月	...	13
●	4月	...	16
●	5月	...	30
●	6月	...	42

●	7月	...	51
●	8月	...	58
●	9月	...	65
●	10月	...	80
●	11月	...	91
●	12月	...	98

1998年1月

1998年01月01日(木) 天気：くもりのち雨

1998年の「撮り初め」

クラカメ^①の発見で1997年は終わった。1998年は、そのクラカメの使用からスタートする。

例年どおり、「梅から生まれた梅太郎」氏と初日の出を拝み、初詣に行くことを予定した。しかし今朝は晴れそうなので初日の出はあきらめ、住吉大社へ行く。そして、例年のごとく「撮り初め」だ。今日は、昨年末にみつけたスプリングカメラの使用感を中心に書く。

このカメラについて、詳細はまだまったくわかっていない。かなり傷んでいる貼り革に刻まれたこのカメラの名称と思われる文字が「Korelle」と読めるので、とりあえずそのように書いておく。

以前から、この種のスプリングカメラを入手したいと考えていた。それは「中判カメラをポケットに入れて持ち運べる」魅力である。具体的な機種としては、6×9判のBessaや、6×6判のMamiya-sixを考えている。昨年末に実家で発掘したKorelleは、セミ判(6×4.5判)である点が少し物足りないが、それだけに携帯性は抜群である。要するに、ハーフサイズである。オリンパスペン同様に、ふつうにかまえると「縦位置」になる。オリンパスペンほどは小さくはなく、「ニコン ピカイチカリブ」などのコンパクトカメラとあまりかわらない大きさである。

空は、薄曇りである。スタジオデラックス^②で計ると、絞りF8でシャッター速度は1/50secになる。たまたま買っていたEktachrome 200のおかげだ。今回は、すべて露出計の「出た目」で撮る。もし、大幅に露出が違っているようならば、シャッターの精度が悪くなっていると考えられる。それは今後、つねに補正を考えなければならないことを意味する。

ともかく、この携帯性はうれしい。コートのポケットにしのばせておき、撮るときにはとりだして、まずレンズを引き出す。露出値を確認してシャッターをチャージ。このとき、ピントも決めておく。そして、ファインダーを起こして構図を決め、シャッターをリリースする。レンズシャッター機のメリットとして、シャッターの動作に伴う音や振動がほとんど感じられないことがある。スナップ撮影には好適だ。1コマ撮ったら、裏蓋の赤窓を見ながらフィルムを送る。

現像所が営業をはじめたら、さっそく現像してもらおう。ちゃんと写るようなら、今後、使う機会が増えるだろう。

- ①クラシックカメラ(古いカメラ、古典的なカメラ)の略。



貼り革に刻まれた文字はKorelleと読める。

- ②セコニックが発売する、入射光式露出計(被写体に当たっている光そのものを測定するタイプの露出計)として定番の製品。



Korelle, Radionar 7.5cm F4.5, EPD

1998年01月02日(金) 天気：快晴

写真が濁れば邪心になる

元日は晴天にならなかったが、今日は見事な快晴である。午後から「梅から生まれた梅太郎」氏をさそって、寒ボタンで有名な奈良県の石光寺を訪れた。今年は気候が平年からややずれているせいか、すでに見ごろな時期は過ぎているようだ。梅太郎は、PENTAX 6×7と最近格安で入手したというFUJI GX690Ⅲの2台、私はいつものMamiya Universal Pressを使った。もちろん、35mm判もサブとして用意はしていたが、私はほとんど使わなかった。

石光寺を出るとき、こんな言葉が書いてあるのに気がついた。

口が濁れば愚痴になる
徳が濁れば毒になる

石光寺に来ていたほかの人びとのなかにも、本格的に写真を撮っていると思われる人が少なくなかった。なかにはBRONICAの姿もある。やはり、中判カメラは目立つ。反対側では、カシャカシャカシャという連写の音が聞こえる。オートフォーカス一眼レフカメラのようだ。その人がかまえるたびにカシャカシャカシャと3つ音がするので、オートブラケティング^③という機能を使っているのだろう。

そんな人は、花なんて見ていないんだ。機械的に撮っているだけ。ひたすらシャッターをリリースする。しかも、機械まかせの撮り方。「花」という生命を撮っているのだ。被写体とじっくり向きあうという姿勢をもっていないのだろう。か、そういう疑問が生じてきた。先の言葉を写真にあてはめてみよう。

写真が濁れば邪心になる

被写体とじっくり向きあうこと、もっとも基本的なことと思うのだが、どうだろうか。「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」的な撮影は、「写真を楽しんでいる」ようにも「花を見ることが楽しんでいる」ようにも見えない。



Mamiya Universal Press, EPP

③露出の決定が難しい場合に、自動的に露出をずらして連続的に露光する機能。測光値を中心に、プラス側マイナス側それぞれ1コマ、計3コマの露光をおこなう場合が多い。



Mamiya Universal Press, EPP

「コレレ」コレハ使える

仕事はじめての月曜日、ブルーな気持ちの人も少なくないだろう。1週間以上も休んだうえでの出勤だから、気が重いのも当然。だが、私の職場と同様に、現像所も仕事はじめてである。お正月の間にKorelleで試し撮りをしたフィルムの現像を依頼しよう。

ところで、Korelleは「コレレ」と読んでいいようだ。いくつかの雑誌やWebページで、「コレレ」という名前を見かけることがあった。綴りは「Korelle」、読み方は「コレレ」で間違いないように思う。



Korelle, Radionar 7.5cm F4.5, EPD

さて、現像から仕上がってきたフィルムをチェックする。うまく撮れていないコマも多い。フィルム送りとシャッターチャージが連動していないから、写っていないコマや二重写しのコマがある。この点はMamiya Universal Pressで慣れているから大丈夫だろうと思っていたが、甘かったようだ。また、フィルム送りもうまくやらないと、隣あうコマがかぶってしまう。

また、シャッターチャージがうまくいかないことがある。チャージできずにすぐにシャッターが開いてしまうのだ。そのために無駄にしてしまったコマも、いくつかある。

しかし、ちゃんと写ったコマの写りは、思っていた以上によい。露出がオーバー気味なのは、シャッターのバネが弱って、露光時間が長めになっているものと予想できる。私はどちらかというとアンダー気味の露出が好きなので、しばらくは露出計の値よりも1段ほど補正を試みようと思う。

セミ判カメラを携帯できる魅力は、大きい。写りが意外とよいが、これがクラシックカメラを使うおもしろさなのかもしれない。これについては、「それはドイツ製のレンズがついているからさ」と言いたい人があるかもしれないが。

ひきつづいてBEAUTYFLEXの試写もしている。あまり撮影する時間がないので、まだフィルムを使いきっていない。今日、職場で何名かにBEAUTYFLEXを見せたら、異口同音に「『なんでも鑑定団』に出そうよ」。BEAUTYFLEXもKorelleも、もともとがさほど高価なものではないし、どちらも保存状態は決してよくない。カメラは、写真を撮ることに使ってこそ価値のあるもの。

1998年01月11日(日) 天気：雨

初歩的なミス

年が明けてから、妙に雨の日が多い。幸い、仕事が今、忙しい。だから安心して休日出勤もできる。休日ごとによく晴れていたら、写真を撮りに出かけたくなるというもの。

Nikon L35AWAD (ピカイチカリブ)に入っている撮りかけのフィルムを早く現像したくて、ずっとカメラをもち歩いていた。しかし、忙しいことと雨の日が多いことから、なかなか写真を撮ってみようという場面にめぐりあえない。

しかし都合あって、そろそろ現像しなければならない。今日、フィルムを巻き戻すことにした。ピカイチカリブは、全自動のいわゆるコンパクトカメラ。巻き戻しレバーを引けば、モーターでフィルムが巻き戻される。しかし、フィルムが巻き戻されるようすもなく、停止してしまった。これは、中でフィルムがひっかかったに違いない。そこで、ピカイチカリブを暗箱にいれて、フィルムを取り出すことにした。

手さぐりで裏蓋をあけ、フィルムをひっぱる。24枚撮りフィルムで20コマくらいは撮影していたから、それなりの長さのフィルムを手でこつこつとパトローネに巻きこむつもりであった。だが、「ない」のである。フィルムが、ほとんど出ていない。フィルムの装填ミスで、全然撮影されていないようだ。

新年早々、なんとも初歩的なミスである。このカメラの場合、フィルムは自動装填である。所定の位置までフィルムを引き出して、裏蓋を閉めてシャッターレリーズボタンを押せばOKなはずだ。しかし、そこでうまくフィルムが巻き取られなかったらしい。カメラはそのまま、フィルムが装填されたものと判断したわけだ。このカメラの場合、フィルムがちゃんと送られているかどうか、知る術がない。

1998年01月17日(土) 天気：雨

いつも持ち歩きたいカメラ

今日も、雨。今年になってから、何回目の雨だろうか。

最近は、雨の日が多く、忙しくもある。お正月の3日ほど軽くスナップ撮影を楽しんだ程度で、ここしばらく気合いを入れた写真を撮っていない。明日の日曜日も雨になるらしい。忙しいからどうせ休日出勤するので、雨が降ってくれたほうが、気が落ち着く。

雨の多い冬というのは難しい。

④西日本の夜明けは、遅い。1月中旬、広島の日の出時刻は7時20分頃である。東京では6時50分頃であり、約30分の差がある。

朝早く起きてなにか撮ろうと思っても、7時半くらいにならないと十分な明るさにならず^④、出勤前にちょっと1枚、というわけにもいかない。

晴れないならば、雪でも降ってくれれば、違ってくる。個人的な趣味の違いもあるだろうが、「雪に埋もれたものは、絵になりやすい」と思っている。最近の一連の雨、関東では大雪になっていて、たいへんなことになっているらしいが。

とまれ狙い目は、よく晴れた日のお昼休み。そのため、カメラをできるだけ常時携帯するようにしている。もっともこれは、今にはじまったことではない。そういう用途には、おもにOLYMPUS XA2を利用してきたが、今、お気に入りなのはKorelleだ。35mm判一眼レフカメラよりずっと小さいのに、中判(6×4.5判)の写真を撮ることができる。

常時携帯したくなるカメラとしては、いわゆる高級コンパクトカメラも魅力がないとは言わない。しかし、私が考えている用途に対して価格が高すぎる。CONTAX Gシリーズを買うくらいなら、すなわちLeica Mシリーズを買うだろう(さらに高いけど)。Leicaを所有していることしか自慢できず、またその価値感を他人におしつけたがる、悪質な「ライカおやじ」は嫌いだが、Leica自身に罪はない。

高級コンパクトカメラという流れは、CONTAX Tシリーズにはじまったものと思うが、これもあまり好きではない。MINOLTA TC-1も魅力的だが、MINOLTAというブランドは、とくに好きなわけではない。GR-1がいかに高く評価されようとも、RICOHのカメラは安くなければならないと考えているので、これも却下。つまり個人的には、ふつうのコンパクトカメラで、そこそこ良心的につくられたと思えるものがよいのだ。価格と性能だけでなく、用途についてもバランスのとれたものがよいと思っている。

でも、Nikon 35TiかNikon 28Tiならば、ほしい。

高級コンパクトカメラをもつことは、「おしゃれ」だとも思うが、さりげなく扱わねば、見栄っぱりに見えそうだ。

一方、クラシックカメラは、どのように扱っても「一味違って」見えるように思う。それなりに整備して、正確に操作しなければ、きちんと写らないからだろう。とくにスプリングカメラとよばれるものは、携帯時の体積がとても小さい。だからこそ今、Korelleがお気に入りなのだ。操作は面倒だし、メカニズムもレンズもあまり状態はよくないが、意外なほどよく写るし、持つことそのものも楽しいものだ。



Korelle, Radionar 7.5cm F4.5, EPD

1998年01月18日(日) 天気：くもりのち晴

Korelleはコレレで正解でした

朝はまだ少し雨が残っていたようだが、午後からはよく晴れてきた。今日も休日出勤していたが、予定していた仕事が案外と早く片づいたため、早々に切り上げた。

Korelleとスタジオデラックスを携えて河川敷へ。すでに16時を過ぎているので、軽く1～2枚だけ撮ってみようかな、というくらいの気持ちだ。河川敷には、犬を散歩させている人の姿が多い。連日の雨で、犬の散歩も満足にできなかったのかもしれない。

撮りながらKorelleを眺めてみると、蛇腹には傷みが見られる。完全に破れてしまう前に、なんからの補強をしておきたい。まもなく日没になりそうなので、久しぶりに、的場町に行くことにした。

すでにシャッターを降ろしているお店もあったが、的場町の「日進堂カメラ」はまだ開いていた。蛇腹式カメラのジャンク的なものでもないものかと思ったのだが、やはりこの店には程度がそこそこよいものしかおいていない。店主に「Korelle」の読み方を尋ねるが、「コレレ」でよいそうだ。昭和のごく初期のものではないかとのこと。

次に紙屋町へ移動し、「カメラのドイ」^⑤を覗いた。中古カメラのウィンドウの前に、某U教授の姿があった。以前、「マミヤプレスの描写に不満があって、しかも6×9判にこだわるなら、スーパーイコンタを使いなさい」「スーパーイコンタはたしかに高い。かわりに、ベツサはどうだ。それなら値段も手頃なはずだ」などと、悪いことを教えてくださった方である^⑥。そこで、Korelleを見てもらった。U教授によると、「シャッターがPRONTORなので昭和10年ころのものだと思う」とのこと。さらに、SchneiderのRadionarというレンズは、評価が高いことを教えてくださった。

蛇腹の補強については、「有名な写真家だって、そこらへんのパンソウコウなどで貼っているだけだよ」と心強いことを教えてくださる。4×5判などじゅうぶんに大きなものなら、それでもよいかとは思いが…。

このとき私がもっとも惹かれたものは、ウィンドウ内にあった「ニコンFアイレベル：外見はちょっと傷んでいるけどオーバーホール済：さらにガンカプラー(AS-1)もついているよ」で40,000円というもの。うーん、どうしようかな…と、少し迷うのであった。



「Korelle」は、「コレレ」と読む。

⑤2003年8月に倒産、2006年3月に再建も断念し、いまは存在しない。

⑥別冊「1997年の撮影日記」を参照(1997年02月02日の日記)。



KorelleにはPRONTORシャッターのRadionar 7.5cm F4.5レンズが装着されていた。

水銀電池アダプタ

昨夜からハラハラ降っていた雪も、午後には一時小康状態になった。それが夕方からまた激しくなり、ついにかんりの積雪が見られるようになった。

水銀電池は、1995年末で製造が停止になった。水銀を使うことで、環境に芳しくない影響を与えるからだという。

最近のカメラの電源は、リチウム電池が主流であるようだが、かつては水銀電池が主流であった。そのころのカメラは、電気を使うといっても露出計くらいであることがほとんどだ。小さな電力を長期間安定して供給できる小型の電池として、水銀電池が主流だったのだ。

幸か不幸か、私が所有するカメラで、水銀電池を必要とするものは1台だけである。Nikomats FTがそう。これはH-D (MR9)を1つ使う。たまたま私は、1995年秋にこの電池を2個買っていた。1つはすぐに使うため。もう1つは予備として。水銀電池はすでに大きなカメラ店が電気店でなければ売っていない状況だったからだ。

その少し後、私は「梅から生まれた梅太郎」氏から1つの相談を受けた。彼の愛用しているMinoxが、突然動かなくなったという。私は「電池が切れただけじゃないの？」そう答えた。その通りだった。しかし、問題はそこにある。ミノックス用の水銀電池が、製造停止になっていたのである。そのとき私は、Minoxはよほど特殊な規格の電池を使うのだろうと思った^⑦。なぜならその少し前に、私はH-Dを2個も買っていたからである。

最近になって実態がわかった。私が最後にH-Dを買ってまもなく、水銀電池は全面的に製造停止になったのである。手元に残っているH-Dのパッケージを見ると、ちゃんとこう書いてある。

地球環境保全のため この電池は'95年末をもちまして生産中止させていただきますのでご理解の程よろしくお願い致します。

困るのは、古いカメラを愛用している人たちだろう。もっともメカニカルシャッター機がほとんどだろうから、スタジオオデラックスなどの単体露出計を使うことで撮影は可能であるだろうが、非常に残念なことである。



水銀電池H-D (MR9)

⑦ライカ判のミノックス35シリーズには、V27PXという5.6Vの水銀電池を使用するものがある。たしかに、あまり一般的な規格の電池ではない。



しかし、それに応えるように、酸化銀電池SR44を水銀電池の代用として使うためのアダプタが発売されている。このような製品を発売するのは、やっぱりケンコーかな？と思ってパッケージの裏面を見たら、古いカメラの修理で有名な「関東カメラサービス」が製造元になっていた。

しかし、このアダプタには2,900円という価格がついていた。SR44は、お店によっては600円～700円くらいする。手元にあるH-Dのパッケージには、「110円」というシールが残っている。酸化銀電池とアダプタの組みあわせを、コストの面で「厳しい」と思う人は少なくないだろう。

1998年01月25日(日) 天気：晴れときどき曇 雪の朝

昨夜からの雪が、ようやく降りやんだ。あたり一面、まっ白な世界である。毎年、こういう日が2～3回くらいある。

今回の寒気は強いものだったらしく、かなり気温が下がったようだ。いつもの年にくらべて、雪がベタつかない。積もった雪のなかを歩くと、サクサク音がする。また、車の通った後は、かなり固く凍っている。

10時ころから外出した。せっかく大雪が降ったのだから、写真を撮りたい。ほんとうなら6月以来訪れていない常清滝を撮りたいのだが、午後から休日出勤をするつもりなので、あまり遠出はできない。そこで、不動院^⑧を訪れることにした。祇園新道^⑨には雪はほとんど残っていなかったが、川沿いの道や不動院へ続くわき道は雪が固く残っている。不動院にもそこそこの雪景色が残っており、一眼レフカメラを使っている人も見かけた。私は、Korelleなどでちょこちょこ撮影。最近、Korelleがすっかりお気に入りになった。

ここの池には、アヒルが2羽いる。どうしているのかな、と思ったら、凍りついた池の隅の、なぜかそこだけ凍っていないところで、首をすくめて震えているようだった。

不動院では1時間ほど撮影し、工兵橋^⑩に場所を移した。川の兩岸もきれいに雪に埋もれている。いつか、この橋を渡る人をテーマに撮るのもおもしろいかな、と思いながら、午後は仕事へ向かった。



水銀電池アダプタの例
酸化銀電池SR44(またはアルカリ
園地LR44)を水銀電池H-D (MR9)
として使用するためのもの。

⑧広島市東区にある真言宗の寺院で、金堂とよばれる建物は、国宝に指定されている。

⑨2017年現在の、国道54号線。当時は、国道183号線が国道54号線であり、この道は国道54号線の「祇園バイパス」という位置づけだった。



Korelle, Radionar 7.5cm F4.5, EPP

⑩広島市内に残る貴重な、木製の床板をもつ吊り橋。